

幼児の観察研究

―活動の発展について―

幼稚園で、子どもがひとりで遊んでいるよりも、二人、三人で遊んでいる方が、また、一種類だけの遊びよりも、何種類もの活動と関連する方が、より発展した遊びであろうか。たとえば、ひとりで電車を作っているよりも、駅をつくる子どももいたり、切符を切る子どももいた方が、より発展した活動であり、より望ましいと考えられるのだろうか。このことをどう考えるかということは、現場の保育者の行動会般に関連するように思う。

ここでも、「発展」ということを見るのに、外側からと内側からと、二つの面からの見方がある。大人の目にとまりやすい外側の面からみると、人数が増し、活動の種類が増すと、より発展したとみなされよう。行為の当事者であ

る子どもの側からみると、そこに無理が生じている場合もあるし、自分自身の内面的な発展とは何も関係のない場合もある。逆にいうと、子どもが内面的に充実し発展しているときに、外からみたところでは、同じ活動の継続であったり、ひとりあそびの継続である場合もある。また、あるときには、内面の発展が同時にはなやかな外面の活動となつてあらわれることもある。

このことを、保育の実例に即して、もう少し具体的に考えてみたい。

次にかかげる事例は、以前に本誌に掲載したことのある五歳児の記録の中の例である。この事例は、私が感動をもつてふれた場面の一つであり、何度も思い返し、人にも話



津 守 真

してきたものである。この場面に立ち会って、私自身教えられることが多かった。そして、最近また、この場面を考えて、この保育場面にふくまれている幼児教育の課題に気が付いたので、この記録をとり上げてみたい。

一、ヨットつくりのいたる保育の記録

男児Tが、ダンボールの箱の底にしてあった、一面がベコベコした紙をもって歩いている。先生がTをみて、

先生「Tちゃん、その紙、何かになりそうね」

T「階段になるよ」

先生「それもいいわね」

T「まどで　こういうときつかうのね」

先生「そう、それもいいわね」

T「どうやろうかな、これ」

先生「どうやったらいいかしら」

T「なにか　四角い箱にくっつけるの」

Tは結局、ヨットをつくりはじめる。(ほかにも、ヨ

ットらしいものをつくっている子どももある)

T「海の中で泳ぎたいときは、ギー　ガチャン」などいいながら、箱の一面を切り開いて、窓のようなものを作

っている。

Tは窓をあげ終わり、

T「「この中に食べものを入れておくんだよ」と隣りの子どもにいう。

~~~~~

先生はTのところに布の入っている箱をもってきて、

先生「Tちゃんたち、布もあるわよ、三角やこういう布帆になるわよ」

先生「ほら、こういう布もあるわよ」

Tは帆をつけ終わり、先生をさがしに行く。

T「せんせい、ほら、ヨットができたよ」

先生は、ヨットを見ながら、色をぬった方がよいこと、舵をつけた方がよいことなど話す。……中略……

先生は、Tたちが作っているようすを見て、大きい青い紙を出してくる。

先生「できたヨットを海に浮かべましょう。ここに並べて

ちようだい」……

Tは先生と一しょに、港を青い紙にはる。

最初から、ほぼ一時間半くらいの時間がたっている。

## 二、子どもが自分の活動を見いだすまで

この場面に、私がひきつけられたのは、何だったのか。

そのひとつは、この記録の前半で、子ども（T）が、ペコペコ紙をもって歩いているところから、ヨットを作りはじめるところまでの、先生との間で展開した過程である。

ここでも、Tの行動を、Tの世界の表現として見る立場から考える。Tが、その紙をもってうろうろと歩きまわり、作ろうとするものが何回も変わっていることは、Tの側に、何ものかにいきあたろうと求めつつ、それが得られないでいる世界があるのを見ることは容易である。そのときの先生は、このTの側に生じている世界を見ていることも明らかである。Tがその何ものかにいきあたるように、先生は声をかけている。

「その紙 何かになりそうね」「それもいいわね」「そうそれもいいわね」「どうやったらいいかしら」など。それは先生にもわからない世界だから、先生のことばも、このように不特定であり、いろいろの可能性をふくんでいる。

Tは、いろいろのことを意識に上らせながら、どこかに固執させられることもなく、これを思うものにいきあたるま

で、さまざまな可能性をたしかめつつ、ゆっくりと回転する。そして、ヨットをつくるということに落ちつく。

この日は、先生はペープサートにとりかかりたく思っていた。ところが、そのために用意した材料を、ここに見るように子どもは別のことに使った。このことも、この日の私にとって印象的なことであった。

この場面で、Tが混とんの中から何ものかを見いだす過程は、この例に特殊なことではなく、他の場合にも、数多く見られることである。あまりにも数多くの例があり、そのいくつかはすでに述べてきたことでもあるので、引用するまでもないであろう。それらと共通の過程をここでも見ることができ。混とんの中に中心を見いだすときには、それをめぐって全体が統合される。しかし、統合された形の背後には、常に形なき混とんがあり、中心が見いだされた次の瞬間に、全体は解体して混とんにもどる。このこともまた、多くの観察例から見ることができるのであるが、ここではこれ以上ふれない。

この記録の前半は、人が自分の活動を見いだすまでの過程の原型を示すものであった、ここで私が新たにいきあた

った問題がある。それはこの記録の後半である。

### 三、「活動の発展」について

前半と後半をつなぐ部分に、Tがヨットをつくりはじめるところがある。Tは箱の一面を切り開いて窓をあける。

「海の中で泳ぎたいときは、ギー ガチャン」というとき、窓から外に出る運動が想像されている。Tは窓をあけ終わり、「この中に食べものを入れておくんだよ」という。箱の中、すなわちヨットの中には、食べものがある。「ヨット」は子どもにとり、その内部に食べものをいれることのできるものであり、外部に出入することのできるものであることがわかる。舟には「内部をもったかこみ」の原型が蔵されている。Tがヨットというとき、まずこの原型を見ていたということができよう。そのことは、保育の最中にも気付かれうる可能性はあるが、気付かれねばならぬというものではない。後になって見直すときに、明瞭にとらえることができる。さらにここで考える課題はむしろ次の点である。

先生は布の入った箱をもってきて、帆をつけることにもついでこうとした。また、大きな青い紙を出して、海らし

くしようとした。そのことにより、Tのヨットは、ヨットらしい形体をもつようになり、海と港という景色ができた。以前には私は、これは活動の発展、展開であると考えた。そして、布の箱や青い大きな紙を先生が持ち出すことは、活動の発展のために必要な具体的な配慮であると考えた。しかし、いま、これを見直すときに、いくつかの疑問が生じる。

第一には舟の内部という内部の原型と基本とする活動が、突然中断されて、それ以後、あらわれていないことである。子どもには、物の内部やかこみの内側は特別の魅力がある。おくり物は、箱にいられて幾重にも包装紙で包むときに、子どもは胸をときめかせながら次々に開いて中味に近づいていく。扉のびったりと閉じた部屋の内側をのぞいて見たいという衝動は、だれもが持っている。子どもは、犬や猫の体の中にも、樹木の中にも、内部の空間や食卓のある居間を夢みるのである。船というのは、内部そのものであり、広く大きな海の中で、自分を守ってくれる内部である。子どもが船をつくるというときには、船の形体よりも、内部そのものの関心であることが多い、この事例でも、箱その

ものが船であり、これに窓をあけて「この中に食べものを入れておくんだよ」といつている。子どもはヨットをつくといつたときに、このような「かこみの内部」を思っていたのかも知れない。しかし、その以後の活動は、ヨットの外形や港の構設となり、子どものもつ内部のイメージから離れたものとなってしまった。その活動は、もっぱら、大人が構成した意図に順応することに向けられ、原型イメージを失っているのではないだろうか。

第二には、一体、活動の発展とは何であろうかといふことである。大人の目に見えるところで活動が豊富になり、空間がひろく用いられ、長時間続くならば、活動が発展したことになるのであろうか。大人に見える世界での活動の発展は、子どもの内的活動の活発さを保証しないであろう。子どもが物ととりくみ、あるいは他の子どもとともに遊びに没入して、その物のもつ原型にまでふれる体験となつていくとき、そこに内的な活動の発展がある。この事例でいうならば、「内部をもったかこみ」のイメージとしての舟について、もう少し子どもが遊びを進めていったならば、子ども自身の活動の発展となつて、もっと違った形になつて進行したかもしれない。それが、大人が外面的に活動の

発展をねらつたために、阻止された点がある。表面的な連想や想像をこえて、原型イメージに達するときに、子どもとしても満足なものとなるのであろう。「活動の発展」の考え方が、見える世界における発展のみにとらわれてはならないであろう。

現代の幼児教育の基礎をなした、米国における「進歩主義教育」を私は高く評価するものであるが、そのカリキュラムは、大体において、外的活動の発展を基本とするものであり、そこに幼児教育の考え方としての問題があるように思う。子どもの内面の発展に重点をおくときには、でき上りは大人が期待するようにならない場合が多いであろう。時には、大人には子どもをすることの意味がわからないかもしれない。大人から見ると、中途半端でやめてしまつて、それ以上は望まないかもしれない。作る過程だけが子どもにとつて価値があつて、でき上つたらすぐにこわしてしまふかもしれない。そのことの積み重ねで一日が終つてしまつても、子どもにとつては満足な一日であろう。内的活動の発展は、目に見えた形にあらわれない場合も多い。

才三には、大人自身の活動が、生きて動いているかどうかどう

かということが子どもに影響があるということである。大人が単に子どもの外的活動を発展させようとする意図の場合には、大人の側に、自分もその活動の中に、よろこびや、やりがいを見いだせるような生きた生活がない。生きた生活のあるところでは、物の外形をこえて、物の見えない本性にまでふれることができる。砂ととりくむこと、固い木ととりくむことなど、いずれも、砂や木でつくられる形の結果を問題にしているのではなく、形のないものから形をつくる過程、あるいは、形のあるものを変形させていく過程に重要な体験がある。

この例に即しているならば、先生がペープサートの予定をやめてまで、もにこのことをやらせてやりたいと思つた、その活気が子どもに伝わつたと思う。先生は、子どもが心の中に実現したいと願っていることは何であるかをさぐり、子どもの心に近づいて感じる努力をする。それは自らの心の中に共通のイメージを見いだそうとする努力でもある。その努力が先生に、「それもいいわね」「そう、それもいいわね」「どうやったらいいかしら」といわせる。

子どもが舟をつくりはじめると、先生の側に舟の勉強がはじまる。進歩主義教育のカリキュラムだと、ここで、船

が航海するとき船の中に持ちこむものは何か、船の帆はどのように風を受けて走るか、船は港で何をするか、港の機能は何かなど、先生自身の勉強が要求される。幼稚園で何時間もかかって汽車をつくったり、動物園を作ったりするとき、先生も一しよになって、それに関連することを勉強していると、その活気が子どもをその單元の中にさそいこむ。子どもはその中から自分のものをとって、自分の活動を展開する。そうなるときには、活動の外的発展と内的発展とは一致してくる。つまり、大人が発展と考えて用意した意図そのものが発展に役立つのではなくて、大人がそれと取りくむ生きた熱気が、子どもをもその渦の中に巻きこんでいるのだと思う。その熱意や研究心の失われたところでは、発展のために予定された活動は、子どもの生きた活動をしぼり、子どもの精神的負担となってしまう。そのような保育によって悩みを感じている幼児の例にも、私どもはしばしば出会うのである。

現在、あちこちで見られるいわゆる単元保育には、活動の外的発展にのみ気がとられている場合が多いように思う。郵便屋さんといえは、大人の生活や社会の中で郵便と関連のある活動を並べて、それを段階づけ、四日か五日に配分

して予定を組み、それに合わせていくような保育が多く見られる。そこには、子どもがゆっくりと物そのものにとり組んで、物の本質を感じ、知っていく余裕もない。先生の側にも、そのもとで取り組んで勉強していただくだけの時間がない。また、予定を進めることに追われて、先生自身、じかに子どもの感じていることにもふれるゆとりがない。それでは、先生にも子どもにも生きた生活が失われてしまう。

もっと子どもの内的活動が発展するように、それには、子どもの内面に、物にふれて感じるイメージが生まれるような生活がたいせつである。それがかならず保証されるのは、子どもが自然物にふれるときである。ゆっくりと自然物ととりくむことができるとき、砂、土、水とのとりくみ、戸外の風の中で走りまわること、木の実や葉であそぶこと等々、同じ物であっても、子どもによって、さまざまな感じとり方がなされる。それは、すべての精神活動の母胎でもある。大人の連想によって作られたごっこあそびの定義による単元活動のわくをはずして見なければならぬ。そうすると、子どものたぎの姿が見えてくる。

ここにかかげた保育の事例は、私はまれにみるすぐれた保育であると思う。この後半の部分から、いわゆる単元保育のもつ問題点に及んだが、この事例では、全体がいきいきと動いており、子どもは満足している。

最近、この保育の担任者である堀合教諭と話したが、この記録の前半は、いつの保育にも共通のたいせつなものを示していること、後半は、一考を要する問題をふくんでいることで意見が一致することができた。それはひとつには、子どもの環境から急激に自然が失われ、それとともに、子どもの生活からいろいろの点で自然さが失われてきたこと、社会全体のいそがしさが子どもの生活にまでおしよせてきたことなど、時代の変化にもよるのであろうと思われる。

この時代にとくに、幼児教育は目に見える成果を追うのではなく、子どもの内面に湧き出る生命力を育てることに力を注がねばならないと思う。